

同窓生からの寄稿

同窓会の森（分収林）で樹木学実習

渡辺 直明 (林S51)

東京都八王子市の裏高尾には約7haの同窓会の森があります。八王子市の市有林で、同窓会の先輩諸氏が植栽、下刈り、間伐の管理をしてきました。最終的に伐採するときに収益を市と折半するという契約—分収林契約を結んでいるので、現在の管理者は同窓会ということになります。しかし、昨今の材木価格は昭和50年台に比べると1/3から1/4にしかありません。そのため伐採を遅らせ、契約を延長しているところです。

暗い話はさておき、この森の一番高い場所としては高尾山のハイキングコースの城山茶屋、標高670mから5分ほどで尾根側の端に辿り着きます。下の方の端は京王バスの終点、小仏停留所から40分くらいです。但し、こちら側には道らしい道はありません。普通のアプローチは日影バス停になります。健脚なら1時間で尾根側の端に到着できるでしょう。

22年度からこの森の番人を仰せつかった私は12月5日に学生3人とこの森の境界を刈り払いしてきました。地域生態システム学科の堀口君、宮崎さんと応用生物科学科の笠原君の3人です。学生達は健脚なので高尾駅北口を8時32分発のバスで出発して10時過ぎには城山茶屋に到着しました。まずは、富士山を背景に記念写真です（写真1）。刈り払うと言っても、最終的な間伐は終わっていて、隣接の森林も同じくらいの林齢なので、特に茂っている訳ではなく、境界杭を確認しながら時々、支障になる木をナタで切ればいい程度で初冬には丁度良い作業です。苦労したのは境界の石探しです。角柱なので分かり易いのですが、かなり土に埋まっているものがあり、場合によっては完全に頭が埋没していたものもありました。少々手間取りましたが、暗くなる直前には下山できました。



(写真1)

この時、この森を眺めて樹木学実習に使えると考えました。この実習ではアチコチの森で枝葉を採集して標本を作り、最終的には枝葉だけで同定できることをめざし、実習なのに成績は

試験で決まります。しかし、問題が一つあります。標本用の枝葉を採集できる場所が少ないことです。高尾山は府中からも近く、森林植物は豊富なので大変良い場所ですが採集は困難です。森林管理所の職員の方と一緒に、ハイキングの人々から白い眼で見られ、「森に入り込んでいる。」などと糾弾されたこともあります。

というような事情から、今年になって5月23日に実習で同窓会の森に行ってきました（写真2）。この日は大雨の予報で実施するかどうか迷いましたが、直前の雲の動き情報から大丈夫だろうと考え、入山しました。結果的には小雨で済み、40種くらいの標本を採取できました。照葉樹林とブナ林の植物が混在するのが高尾の強みです。他の実習地では少ないコバノガマズミやシラキ、ウラジロノキなどが採れたのは有り難かったです。同窓会の山はスギ、ヒノキの人工林ですが、林床にはハナイカダ、クロモジ、ウリノキなどが目立ちました。城山茶屋で解散したら学生の下山は早くも40分後くらいには日影バス停に着いたようです。私は10分遅れ。私の歩く速度が速いというクレームが学生から出ることがありますが、事実でなく、労ってくれていることがよく分かりました。



(写真2)

同窓会の森は色々な角度から使えると思われます。契約期間の間にご利用されることを提案いたします。例えば、環境教育や森林ボランティアの実施場所としては便利でしょう。豊富な森林植物があることから、この秋には昔に使われた簡素な工芸品などの素材について解説する講座を予備的に開いてみたいと考えていますので、興味がある方はご連絡下さい。

33年ぶりの母校

岩本 隼人 (農S54)

東京農工大学農学部農学科を卒業し、農林水産省に勤務して33年目となります。農林水産省ではポストの異動が平均2年で